

平成 30 年度
大阪市ひとり親家庭等実態調査

質的データ分析報告書

平成31年（2019年）3月

大阪市こども青少年局
子育て支援部こども家庭課

目 次

1. 分析の概要	1
(1) テキストマイニングとは	1
(2) 分析目的	1
2. ひとり親家庭調査の記述意見の分析結果	2
(1) 就労に対して、困ったこと、あればいいと思う支援について	2
(2) 行政、企業、社会への要望や意見について	5
3. 寡婦調査の記述意見の分析結果	8
(1) 行政、企業、社会への要望や意見について	8

1. 分析の概要

(1) テキストマイニングとは

テキストマイニングとは、アンケート調査における自由記述の文章のほか、インターネット上の電子掲示板やソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の書き込み、ニュース記事など、定型化されていない文字情報の集まりを自然言語解析などの手法を用いて解析し、何らかの有用な知見を見つけ出すことに使われる手法のことである。

テキストマイニングを用いた分析では、文書を単語やフレーズに分解し、特定の表現の出現頻度やその増減、複数の表現の関連性や時系列の変化などを調べる。これにより、知られていなかった問題点を見出したり、様々な要素や要因の間の結びつきを可視化したり（共起ネットワーク分析）、市民の評価（肯定的か否定的か）や時系列の推移を把握したりする（センチメント分析）ことができるというものである。

(2) 分析目的

ひとり親家庭等生活実態調査で得られた市民の記述意見をテキストマイニングの手法を活用して内容分析を行い、市の様々な施策に関する市民の潜在的なニーズや課題を明らかにすることを目的に実施した。

なお、内容分析の対象とした質問項目は、次のとおりである。

①ひとり親家庭調査

- ・問 28（働いていて困ることは何ですか。また、どのような支援があればいいと思いますか。）
- ・問 46（ひとり親家庭への子育て支援、就業支援などについての、行政、企業、社会への要望や意見、今後の生活で心配なこと、悩んでいることなど、お聞かせください。今後の施策の参考にさせていただきます。）

②寡婦調査

- ・問 26（ひとり親家庭並びに寡婦家庭への子育て支援、就業支援などについての、行政、企業、社会への要望や意見、今後の生活で心配なこと、悩んでいることなど、お聞かせください。今後の施策の参考にさせていただきます。）

また内容分析は、KH-coder（ver3.0）というテキストマイニングソフトを使用し、共起ネットワーク分析*の手法により行った。

*共起ネットワーク分析：文書からその文書を特徴づける語の抽出を行い、特徴語同士の共起関係をネットワーク図にする手法。特徴語同士の結びつきや関連性を考察し、総合的な市民の要望・課題（ニーズ）や意見を読み取る。

2. ひとり親家庭調査の記述意見の分析結果

(1) 就労に対して、困ったこと、あればいいと思う支援について

ひとり親家庭調査の問 28 を対象に分析を行った結果は次のとおりである。

■質問文

【現在働いている方、働いたことがある方におうかがいします】

問 28 働いていて困ることは何ですか。また、どのような支援があればいいと思いますか。(自由記載)

記述意見を解析し、分析対象となった抽出語は 4,041 種類であり、そのうち頻出する上位 150 語をみると下表のとおりとなっている。

■頻出する上位 150 語

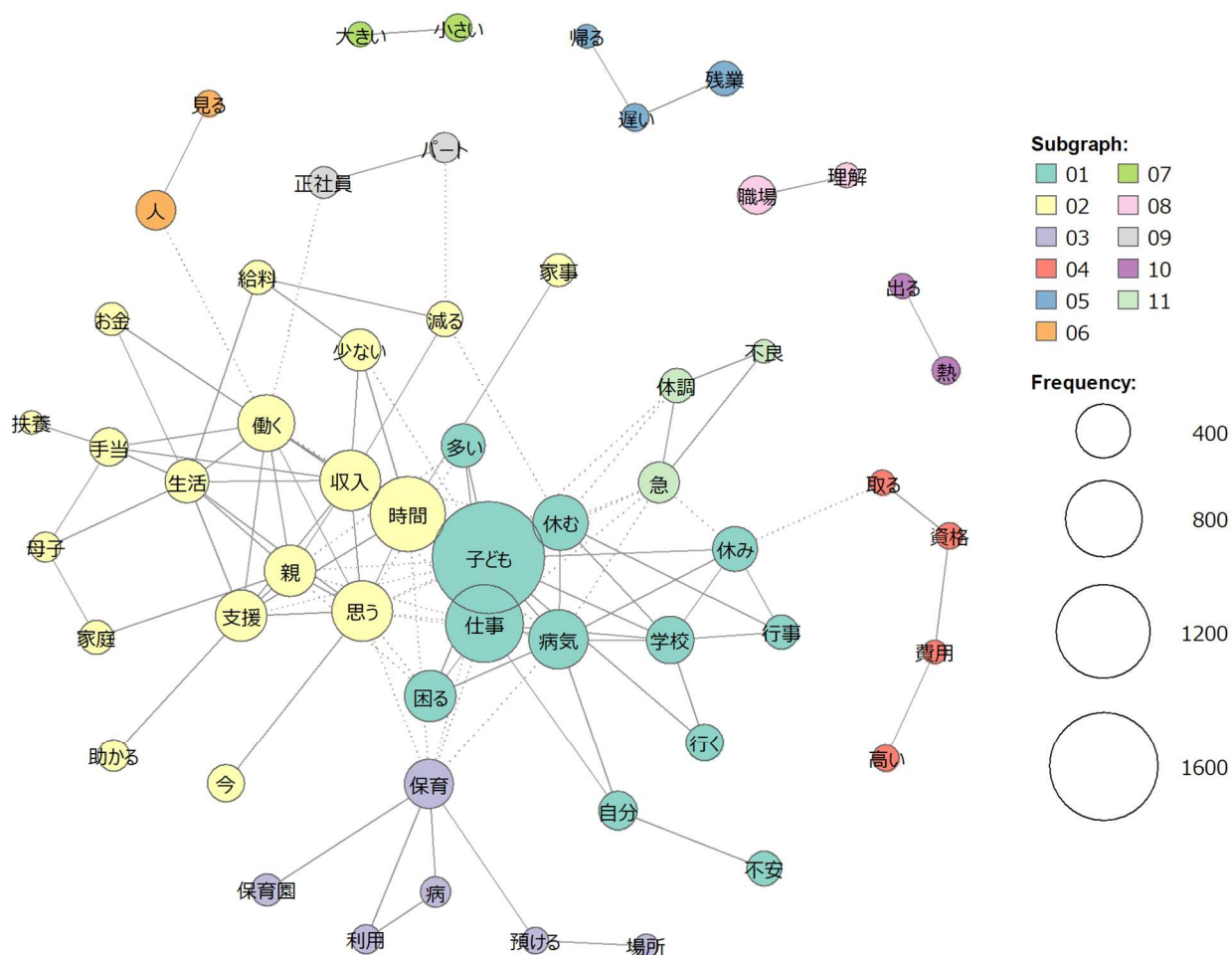
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
子ども	1,720	不安	155	行ける	89	場合	67	居る	49
仕事	820	お金	152	出る	87	病院	67	小学生	49
時間	778	家事	151	子	86	帰宅	65	早退	49
思う	502	出来る	143	大きい	85	安い	64	自身	48
収入	495	会社	141	取る	84	休日	64	制限	48
病気	471	言う	137	理解	84	参加	63	増やす	48
働く	430	助かる	136	少し	83	相談	63	延長	46
休む	421	正社員	135	心配	82	長期	63	環境	45
支援	366	保育園	135	受ける	80	平日	63	給与	45
親	355	勤務	134	場所	80	関係	60	塾	45
困る	351	パート	129	増える	80	転職	60	出勤	45
保育	325	母子	128	不良	78	もう少し	59	精神	45
学校	310	病	121	子育て	77	手当て	59	近く	44
休み	276	特に	119	扶養	77	施設	58	迎える	44
生活	257	考える	116	補助	76	余裕	58	土	44
多い	257	休める	114	帰る	75	サービス	57	無い	44
少ない	236	大変	114	費用	75	休暇	57	高校	43
急	225	利用	112	児童	74	得る	57	習い事	43
人	209	家	108	小学校	74	夜	57	進学	43
職場	200	遅い	104	大学	74	金銭	56	勉強	43
自分	197	熱	103	長い	72	医療	55	安定	42
手当	197	必要	102	難しい	72	有給	55	月	42
行く	188	小さい	101	経済	71	取得	54	事	42
今	180	働ける	99	負担	71	両立	54	時給	42
減る	170	制度	97	保険	71	感じる	53	所得	42
給料	166	高い	95	お迎え	70	気	52	安心	41
体調	166	資格	95	休ム	70	預かる	52	取れる	41
行事	156	預ける	94	対応	70	上がる	50	出す	41
家庭	155	見る	92	食事	69	年齢	50	母	41
残業	155	現在	89	悪い	67	良い	50	迷惑	40

就労して困っていることや望む支援に関する意見では、「子ども」が1,720回と最頻出のキーワードとなっている。これに次いで「仕事」(820回)や「時間」(778回)となっており、以下「思う」(502回)、「収入」(495回)、「休む」(421回)、「支援」(366回)などが続いている。

次に、KH-coderの「共起ネットワーク」のコマンドを用い、「働いていて困ること」「希望する支援」に関する記述意見の中で、出現パターンの似通った語(共起の程度が強い語)を線で結んだネットワークを描いた(下図)。

強く結びついた単語が色ごとにグループ化され、線の太さは単語の結びつきの強さを示し、円が大きければ大きいほど、出現回数が多いことを示している。

■「働いていて困ること」「希望する支援」に関する記述意見に基づく共起ネットワーク図



共起ネットワーク図から次の傾向を読み取った。

- 最頻出語である「子ども」を中心に、大きく2つの集まりからなるつながりが形成されている。そのひとつは、「子ども」から「仕事」「病気」「休む」「困る」が結びついた集まりであり、2つ目は「学校」から「病気」「休む」「休み」「行事」「行く」などの語が結びついた集まりである。これらの集まりの関係性から、子どもが病気になった時や学校行事への参加などを理由に仕事を休みにくいことに困ったり悩んだりしている親が多いことが読み取れる。
- 「子ども」を中心としたつながりとは別に、「収入」を中心としたつながりも形成されている。具体的には、「収入」は「働く」「少ない」「生活」、そして「支援」とつながっている「親」などとの関係性が強いことから、それが生活基盤となっていると想像できる。一方で「収入」との結びつきが強い語である「減る」が「病気」とつながる「休む」とそれほど強くはないものの関係性がみられ、子どもが病気になり仕事を休むことで収入が減ることに困っている親もいることが読み取れる。
- また、「収入」は、「母子」「家庭」「扶養」と結びついている「手当」との関係性も強く、生計の柱として児童扶養手当などの給付金へのニーズが高いことがうかがえる。
- 「保育」は、「病」「利用」「預ける」「場所」「保育園」と結びついているが、関係性はやや弱いものの「仕事」「病気」とも結びついている。子どもが病気となった時の預かり先に対する困りごとや要望があることが読み取れる。

(2) 行政、企業、社会への要望や意見について

続いて、ひとり親家庭調査の問 46 を対象に分析を行った結果は次のとおりである。

■ 質問文

問 46 ひとり親家庭への子育て支援、就業支援などについての、行政、企業、社会への要望や意見、今後の生活で心配なこと、悩んでいることなど、お聞かせください。今後の施策の参考にさせていただきます。

記述意見を解析し、分析対象となった抽出語は 6,139 種類であり、そのうち頻出する上位 150 語をみると下表のとおりとなっている。

■ 頻出する上位 150 語

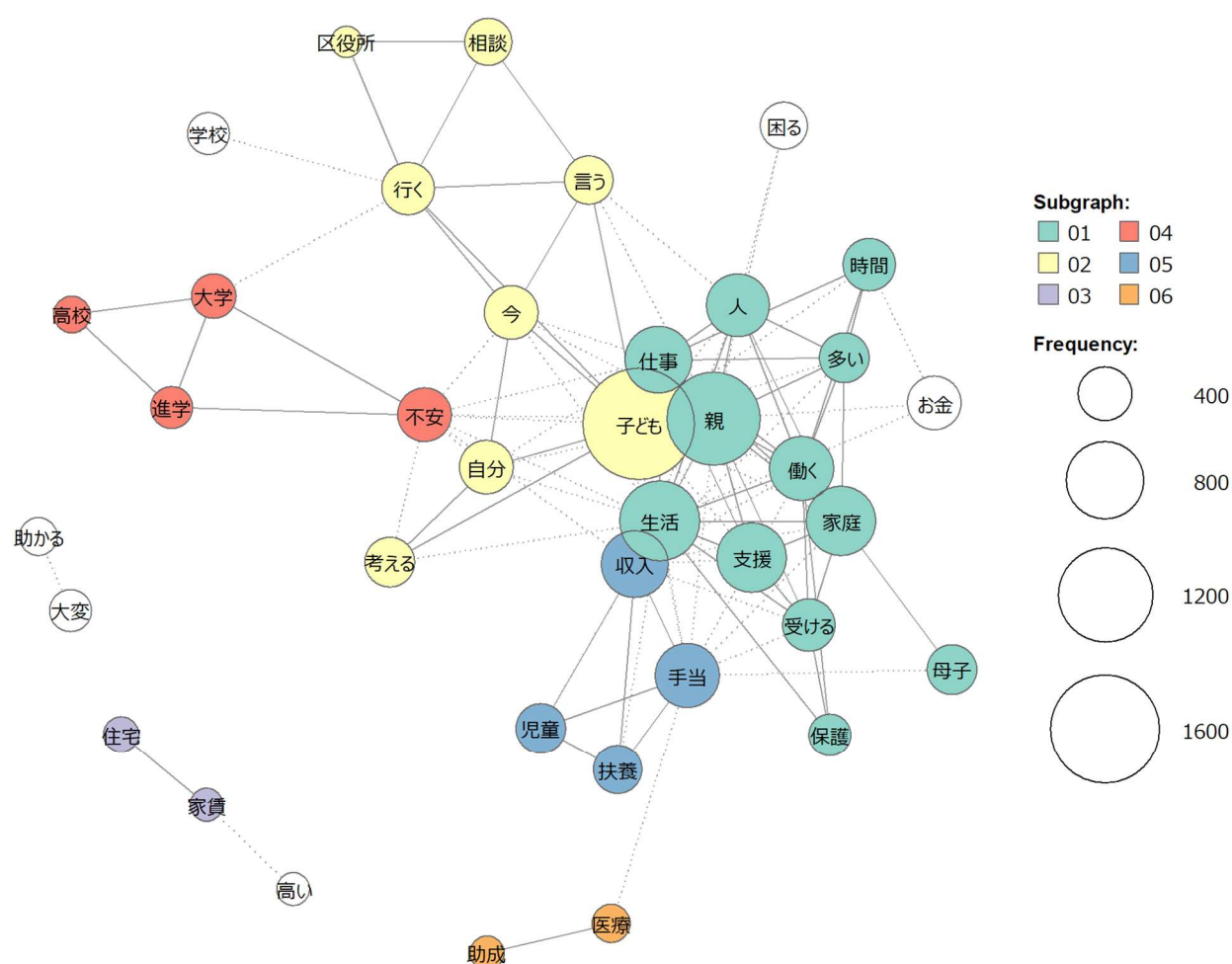
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
子ども	1,690	経済	235	区役所	137	金額	104	払う	84
思う	1,342	学校	233	大きい	136	教育	102	パート	83
親	1,176	大変	231	病気	136	自身	102	小学校	81
生活	878	制度	227	家	133	入れる	102	同居	81
支援	661	離婚	223	聞く	133	塾	101	介護	79
家庭	648	本当に	220	対応	130	年金	100	給料	79
収入	605	子	214	良い	130	世帯	99	卒業	79
仕事	594	必要	201	見る	129	お願い	98	支払う	78
手当	551	医療	200	林 ^ポ ート	123	事	98	生きる	77
働く	548	助かる	199	税金	122	入る	98	老後	77
人	536	高校	189	養育	122	減る	97	就職	76
不安	400	保育	186	手当て	121	助ける	97	安定	75
今	393	心配	182	分かる	121	場合	95	資格	75
お金	383	少ない	178	今後	120	手続き	94	上がる	75
自分	383	現在	177	住む	120	全く	94	毎日	75
時間	378	子育て	175	働ける	116	余裕	94	たくさん	74
受ける	372	感じる	168	補助	116	前	93	気持ち	74
行く	365	住宅	167	正社員	113	悩む	93	増やす	74
母子	344	利用	167	精神	113	受給	92	入学	74
考える	331	少し	166	社会	112	大阪	92	話	74
多い	331	助成	158	役所	111	金銭	89	結局	73
児童	329	もう少し	152	費用	109	出る	88	難しい	73
言う	322	行政	152	市営	107	サービス	87	病院	73
扶養	314	家賃	150	休む	106	所得	87	未婚	72
困る	306	高い	149	将来	106	小さい	87	職場	71
相談	303	負担	147	保育園	106	理由	87	制限	71
大学	268	苦しい	144	状況	105	保険	85	窓口	71
出来る	245	知る	143	特に	105	理解	85	夫	71
保護	241	増える	142	育てる	104	学費	84	自立	70
進学	239	援助	137	頑張る	104	支給	84	書く	70

質問は、行政、企業、社会への要望や意見、今後の生活で心配なこと、悩んでいることなど幅広い意見・要望等を問いかける形式となっているが、最頻出のキーワードとしては「子ども」が1,690回と最も多くなっている。これに次いで「思う」(1,342回)といった主観的な意見や思いを発する語が、3番目には「親」(1,176回)が多く、これら3語が出現数1,000回を超えている。以下「生活」(878回)、「支援」(661回)、「家庭」(648回)、「収入」(605回)、「仕事」(594回)、「手当」(551回)、「働く」(548回)、「人」(536回)などの出現数が500回を超えている。

次に、KH-coderの「共起ネットワーク」のコマンドを用い、「行政、企業、社会への要望や意見」や「今後の生活で心配なこと、悩んでいること」などに関する記述意見の中で、出現パターンの似通った語（共起の程度が強い語）を線で結んだネットワークを描いた（下図）。

強く結びついた単語が色ごとにグループ化され、線の太さは単語の結びつきの強さを示し、円が大きければ大きいほど、出現回数が多いことを示している。

■「行政、企業、社会への要望や意見」「今後の生活で心配なこと、悩んでいること」に関する記述意見に基づく共起ネットワーク図



共起ネットワーク図から次の傾向が読み取った。

- ネットワークは大きく4つの集まりから形成されている。ひとつは、最頻出語である「子ども」を中心に「区役所」「相談」「行く」「言う」「今」の各語に結びつく集まりであり、子どもに関する相談窓口に対する要望やニーズを表していると読み取れる。
- 2つ目は、「親」を中心に「生活」「仕事」「働く」「人」「支援」の各語に結びつく集まりで、主に就労における困りごとや支援に対する要望やニーズを表していると読み取れる。「仕事」は「人」と、「時間」は「多い」と関係性が強く、前者は就労の場面における人間関係に対する不満や世間一般の人の態度や姿勢に対する意見を、後者は長時間労働や残業などの働き方への現状について不満や意見をもつ親が多いことが読み取れる。
- 3つ目は、「収入」から「手当」「児童」「扶養」の3語と結びついている集まりで、「生活」との関係性が強く、生計の柱として児童扶養手当などの給付金へのニーズが高いことがうかがえる。
- 4つ目は、「不安」と「高校」から「大学」「進学」へと結びついている集まりで、子どもの進路への不安を感じている一方で、大学進学を望む親が多いことが読み取れる。

3. 寡婦調査の記述意見の分析結果

(1) 行政、企業、社会への要望や意見について

寡婦調査の間 26 を対象に分析を行った結果は次のとおりである。

■質問文

問 26 ひとり親家庭並びに寡婦家庭への子育て支援、就業支援などについての、行政、企業、社会への要望や意見、今後の生活で心配なこと、悩んでいることなど、お聞かせください。今後の施策の参考にさせていただきます。

記述意見を解析し、分析対象となった抽出語は 1,387 種類であり、そのうち頻出する上位 150 語をみると下表のとおりとなっている。

■頻出する上位 150 語

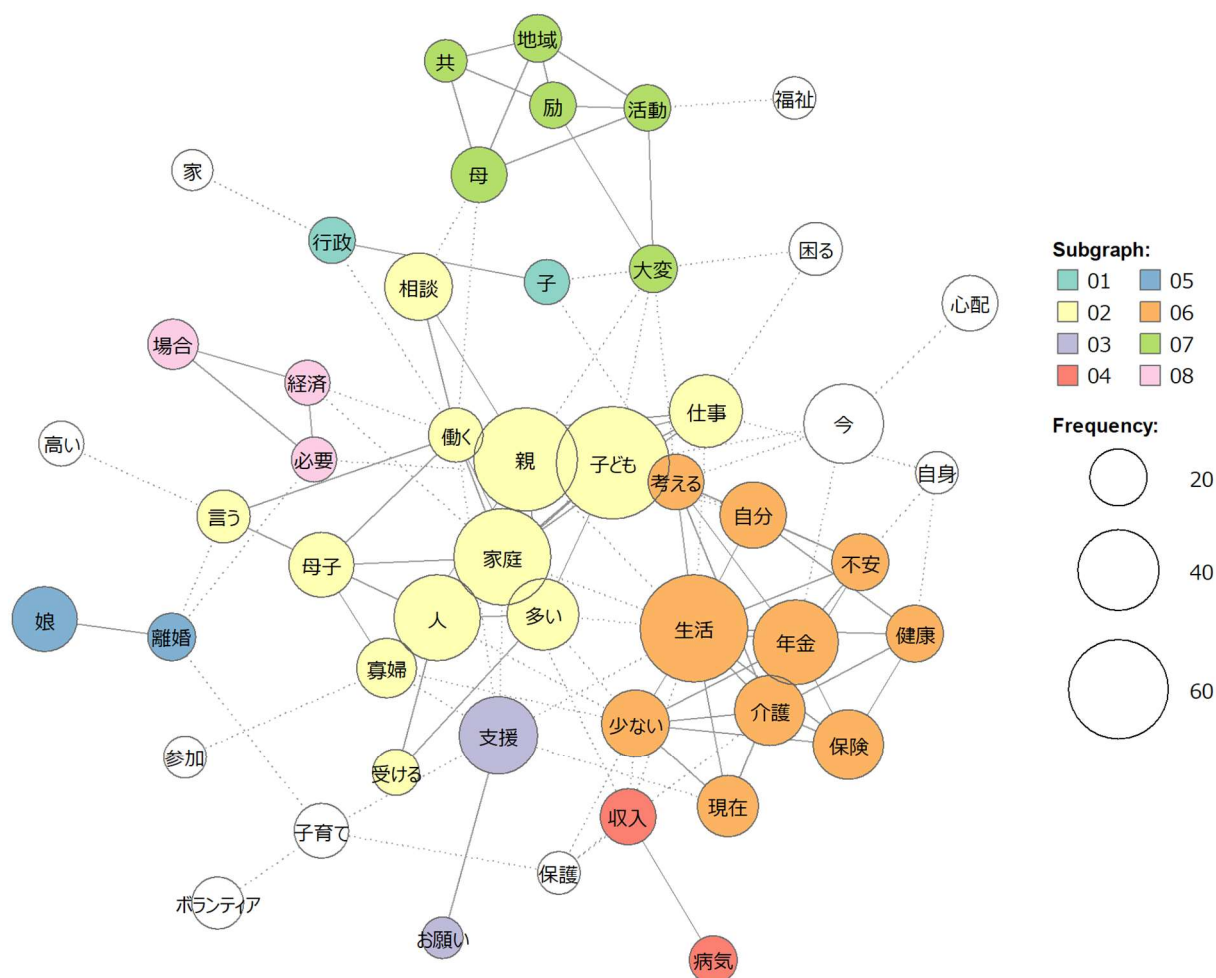
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
思う	88	困る	17	役所	9	安心	6	ヘルパー	5
子ども	77	ボランティア	16	利用	9	違う	6	以前	5
生活	70	場合	15	良い	9	引く	6	医療	5
親	64	大変	14	もう少し	8	楽しい	6	一番	5
家庭	56	地域	14	見る	8	感謝	6	援助	5
人	45	病気	14	今後	8	頑張る	6	家族	5
年金	43	負担	14	作る	8	居る	6	会員	5
今	38	離婚	14	心	8	雇用	6	企業	5
支援	37	活動	13	孫	8	高齢	6	機関	5
仕事	32	行政	13	知る	8	支払	6	気	5
多い	31	社会	13	同居	8	支払う	6	気持ち	5
介護	30	受ける	13	特に	8	実家	6	教える	5
出来る	30	励	13	入る	8	若い	6	区役所	5
保険	30	経済	12	暮らす	8	手当	6	厚生	5
少ない	28	高い	12	有る	8	助かる	6	事	5
相談	28	子	12	安定	7	将来	6	児童	5
自分	27	必要	12	学校	7	情報	6	住む	5
母子	25	共	11	感じる	7	身体	6	状態	5
娘	25	元気	11	行事	7	制度	6	色々	5
現在	22	参加	11	国民	7	正社員	6	世話	5
寡婦	21	自身	11	時間	7	声	6	成る	5
健康	20	息子	11	主人	7	当時	6	精神	5
不安	20	福祉	11	出る	7	入院	6	税金	5
考える	19	保護	11	親族	7	悩む	6	前	5
収入	19	お願い	10	生きる	7	勉強	6	対応	5
心配	19	家	10	働ける	7	亡くなる	6	退職	5
母	19	行く	10	夫	7	又	6	入れる	5
子育て	18	少し	9	お世話	6	来る	6	年	5
働く	18	団体	9	サポート	6	お金	5	年齢	5
言う	17	聞く	9	パート	6	アルバイト	5	病院	5

質問は、行政、企業、社会への要望や意見、今後の生活で心配なこと、悩んでいることなど幅広い意見・要望等を問いかける形式となっているが、最頻出のキーワードは、主観的な意見や思いを発する語である「思う」が88回で、これに次いで、「子ども」(77回)となっている。以下「生活」(70回)、「親」(64回)、「家庭」(56回)などの出現数が50回を超えている。

次に、KH-coderの「共起ネットワーク」のコマンドを用い、「行政、企業、社会への要望や意見」や「今後の生活で心配なこと、悩んでいること」などに関する記述意見の中で、出現パターンの似通った語（共起の程度が強い語）を線で結んだネットワークを描いた（下図）。

強く結びついた単語が色ごとにグループ化され、線の太さは単語の結びつきの強さを示し、円が大きければ大きいほど、出現回数が多いことを示している。

■「行政、企業、社会への要望や意見」「今後の生活で心配なこと、悩んでいること」に関する記述意見に基づく共起ネットワーク図



共起ネットワーク図から次の傾向が読み取った。

- ネットワークは大きく3つの集まりから形成されている。ひとつは、最頻出語である「子ども」を中心に「親」「仕事」「家庭」「人」「多い」「働く」などの各語に結びつく集まりであり、自身の子どもの近況に関する意見のほか、市の子どもの将来に向けた市の取組に対する要望や期待のあらわれと読み取れる。
- 2つ目は、「生活」を中心に「自分」「年金」「介護」「少ない」「不安」などの各語に結びつく集まりで、主に自身の年金生活や今後の介護の必要性などに対し不安を感じていることが読み取れる。「年金」と「介護」は「健康」や「保険」との関係性も強く、老後の健康不安や暮らしへの備えに対するニーズの高さがうかがえる。
- 3つ目は、「母」から「共」「地域」「活動」の3語と結びついている集まりで、「地域」は「励」との関係性が強く、自身の励みになるような地域活動への関わりへの意向の高さがうかがえる。